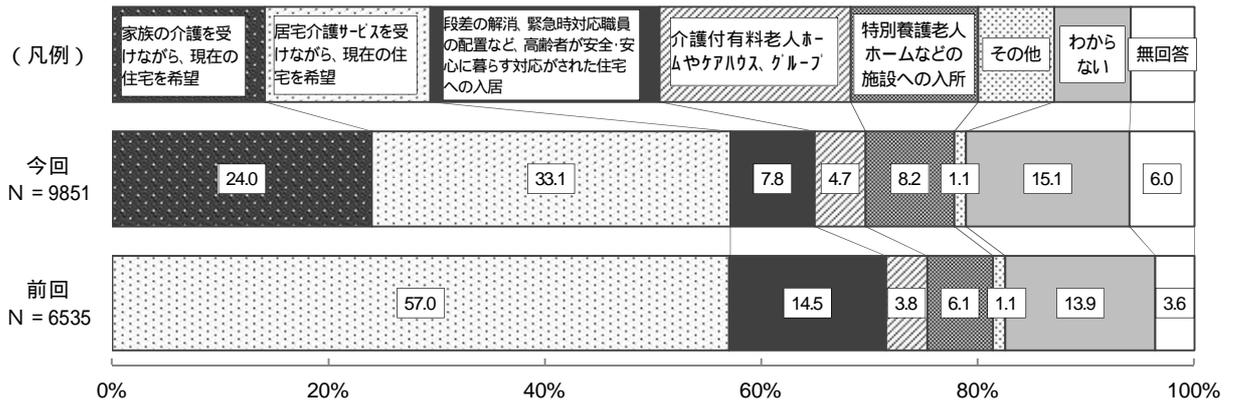


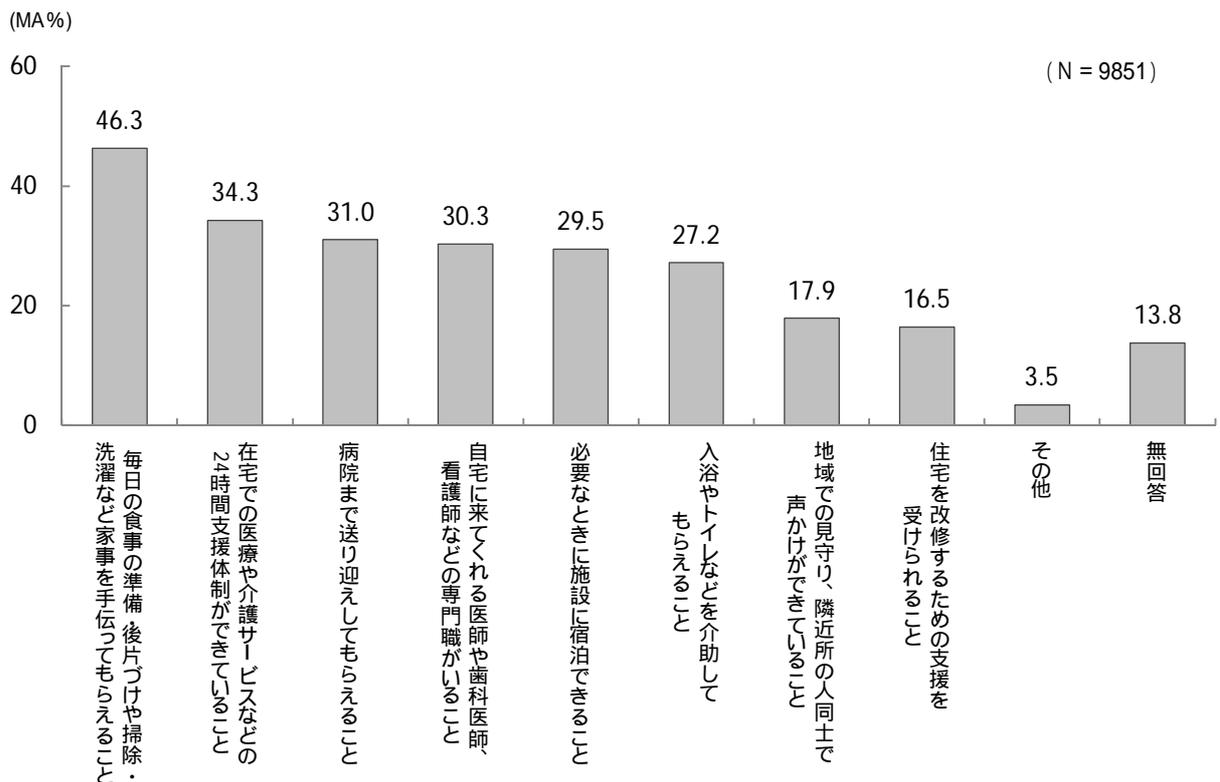
問28 介護や援護が必要になった場合に希望する暮らし方

・将来の希望する暮らし方については、「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が33.1%と最も多く、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の24.0%とあわせると、『現在の住宅に住み続けたい』との回答は、57.1%となっている。前回調査と同様、在宅を希望する割合が最も高くなっている。
 ・前回調査との比較では、「高齢者が安全・安心に暮らす対応がされた住宅に入居したい」の割合が少なくなっている一方、「特別養護老人ホーム等への入所」の割合は増えている。



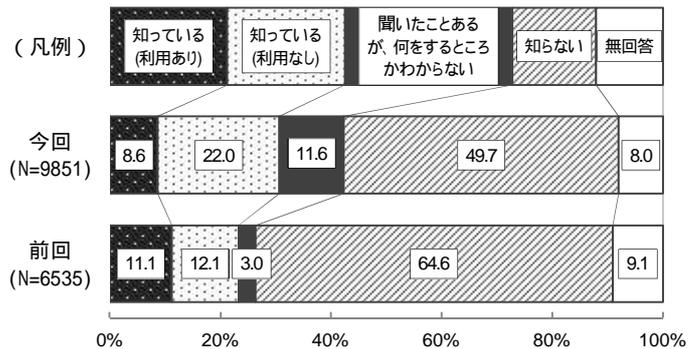
問29 在宅生活継続のために必要な支援（複数回答）

・必要な支援については、「毎日の食事の準備・後片付けや掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が46.3%と最も多く、次いで「在宅での医療や介護サービスなどの24時間支援体制ができていること」となっている。以下、「病院まで送り迎えしてもらえること」、「自宅に来てくれる医師や歯科医師、看護師などの専門職がいること」の順となっており、医療関連する支援が上位となっている。
 ・前回調査との比較では、概ね前回と同様の傾向となっている。



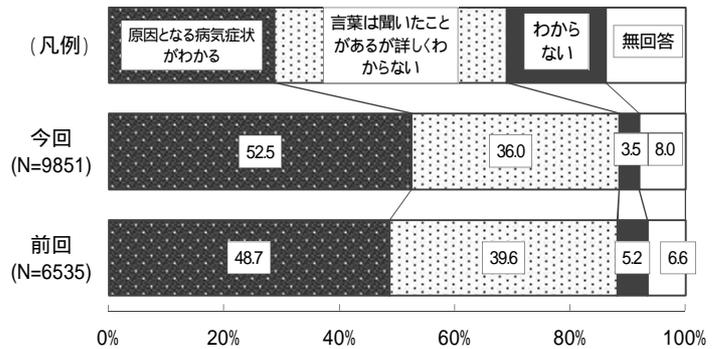
問31 地域包括支援センター等の利用・認知状況

・地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）については、「利用したことがある（知っている）」「知っているが、利用したことはない」を合わせた割合が30.6%となっており、地域包括支援センター等を知っている方の割合は、前回より7.4ポイント高くなっている。
 ・また、「聞いたことがない（知らない）」と回答のあった方の割合は49.7%であり、前回と比べ、14.9ポイント減少している。



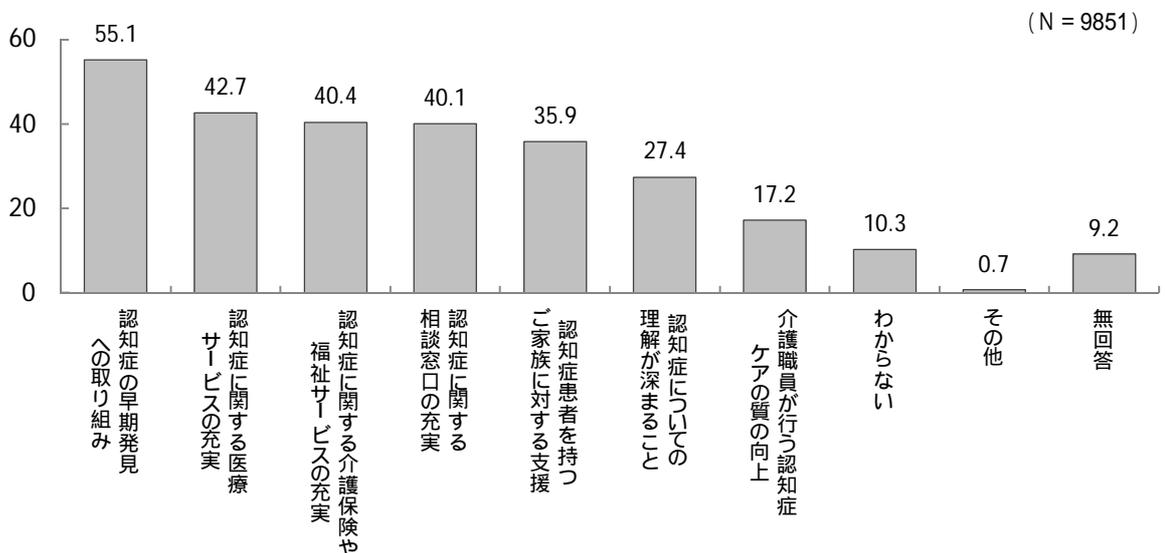
問33 認知症という病気の認知度

・認知症については、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が52.5%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」は3.8ポイント高くなっており、「言葉は聞いたことがあるが、原因となる病気や症状などについてはわからない」は3.6ポイント低くなっている。



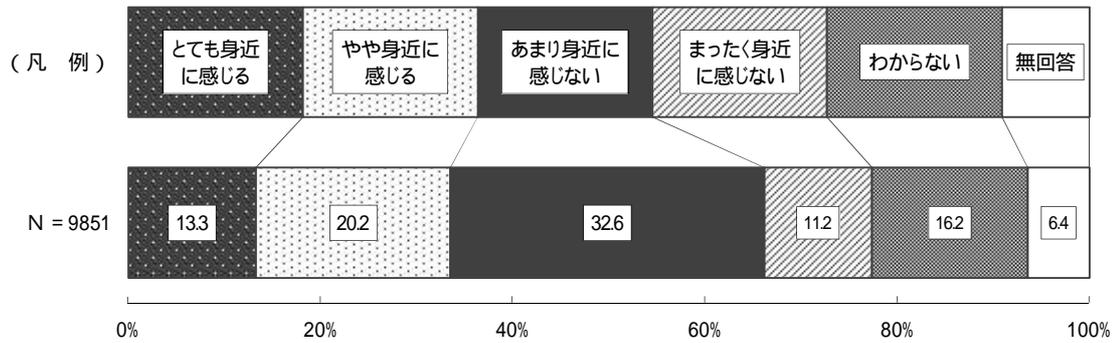
問35 認知症の人の支援に必要と考えること（複数回答）

・認知症への支援に必要と考えることについては、「認知症の早期発見への取り組み」が55.1%で最も多く、次いで「病院やかかりつけの医師における、認知症に関する医療サービスの充実」の順となっている。



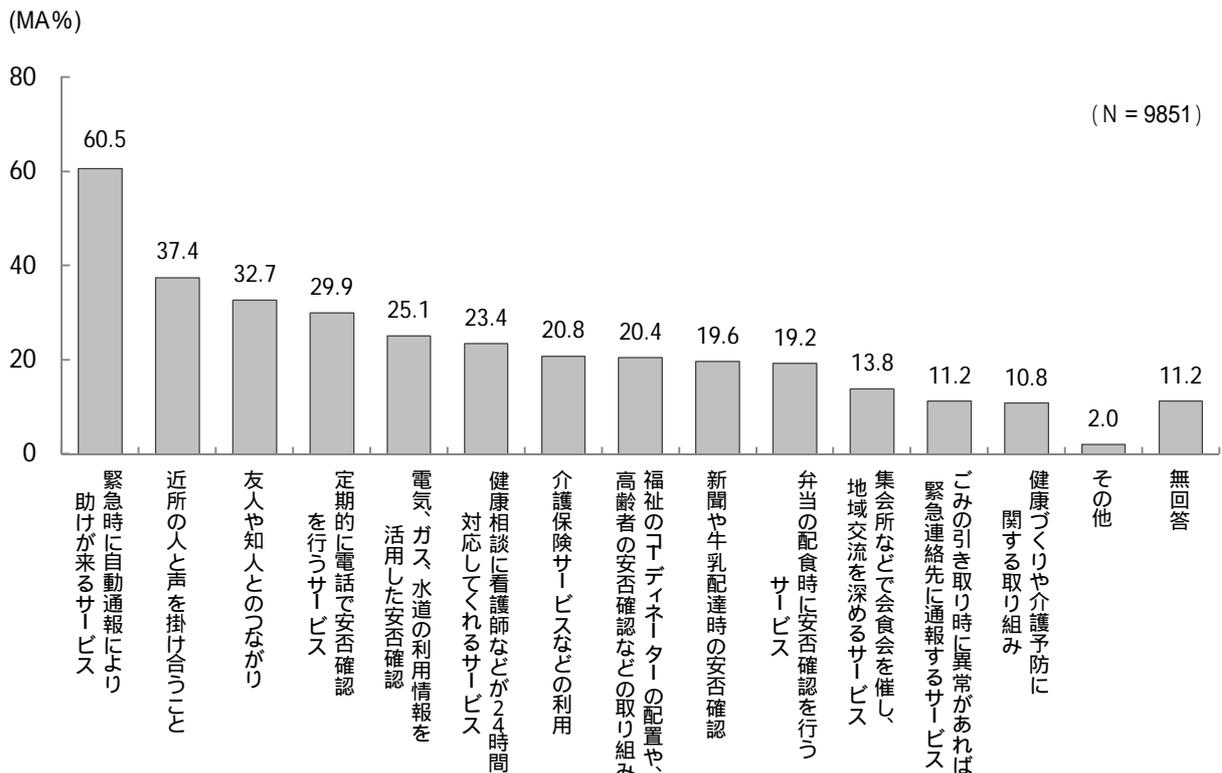
問36 孤立死について考えること

・孤立死について考えることは、「あまり身近に感じない」が32.6%と最も高く、「まったく身近に感じない」と合わせると43.8%となっている。
 ・「とても身近に感じる」と「やや身近に感じる」は、合わせると33.5%であり、3割を超える方が身近だと感じている。



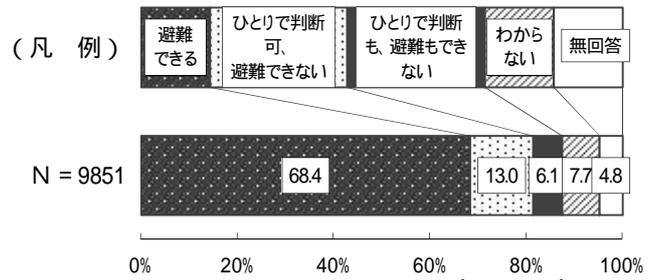
問37 孤立死を防止するために必要と考える支援（複数回答）

・孤立死を防ぐために必要と考える支援については、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が60.5%と最も多くなっており、6割近い方がこの選択肢を選んでいる。次いで「近所の人と声を掛け合うこと」、「友人や知人とのつながり」の順となっており、身近な関係を重視する項目を選択する方が多くなっている。



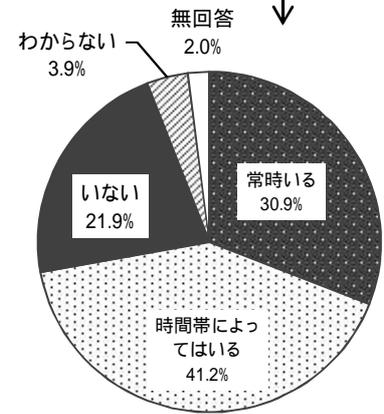
問38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か
問38-1 (ひとりで避難できない方) 手助けを頼める人の有無

・災害・緊急時の避難については、「避難できる」との回答が68.4%で最も多い。
 ・一方、「ひとりで判断できるが、避難はできない」「ひとりで判断できなし、避難もできない」を合わせた『避難のできない方』は、19.1%となっている。



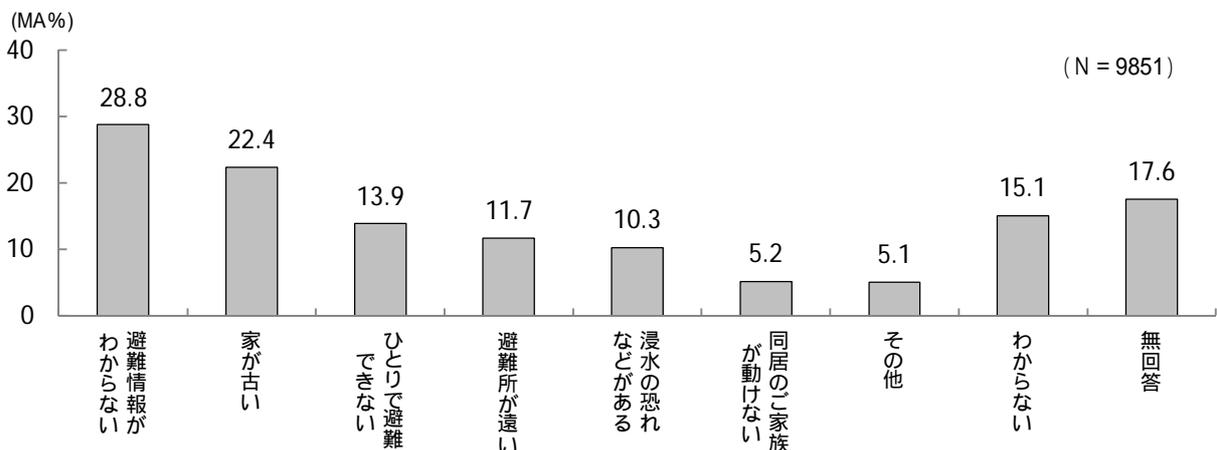
(ひとりで避難できない方) 手助けを頼める人の有無

・ひとりで避難できないと回答した方に、助けを頼める人の有無についてたずねると、「常時いる」「時間帯によってはいる」との回答が7割を超える。
 ・他方、ひとりで避難できない方の約2割の方は、手助けを頼む人もいないとの結果となっている。



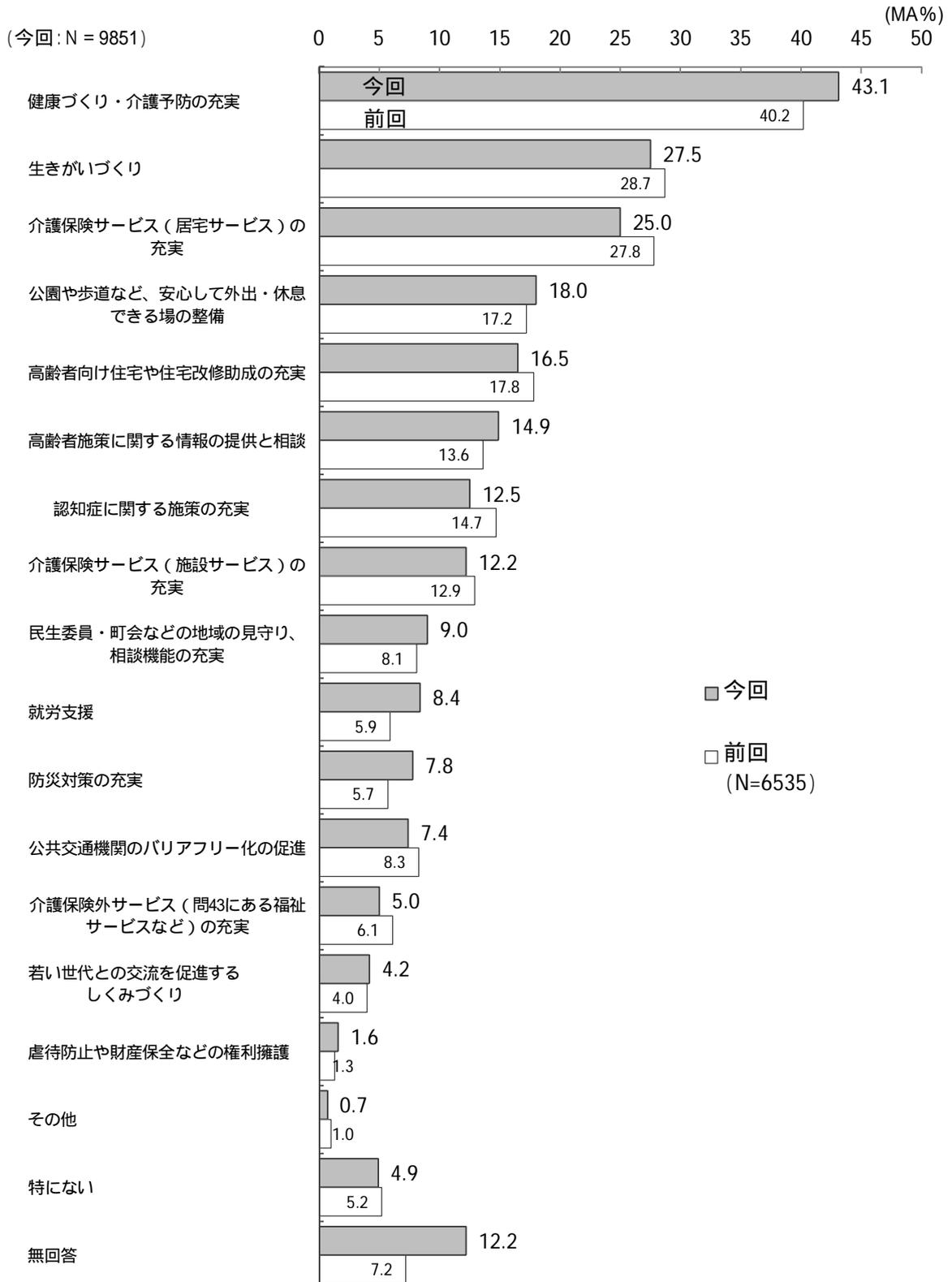
問39 災害時の心配事 (複数回答)

・災害時の心配事については、「避難情報がわからない」が28.8%で最も多く、次いで「家が古い」、「ひとりで避難できない」の順となっている。
 ・また、「わからない」との回答も多く、全体では3番目に多い回答となっている。



問45 重点を置くべきと考える高齢者施策 (回答3つまで)

・高齢者のための施策として重点をおくものとしては、「健康づくり・介護予防の充実」が43.1%と最も多く、次いで「生きがいづくり」、「介護保険サービス(居宅サービス)の充実」の順となっている。
 ・前回調査と比較すると、「健康づくり・介護予防事業の充実」が最も多く、次いで「生きがいづくり」、「介護保険サービス(居宅サービス)の充実」の順となっており、前回と同様の傾向となっている。

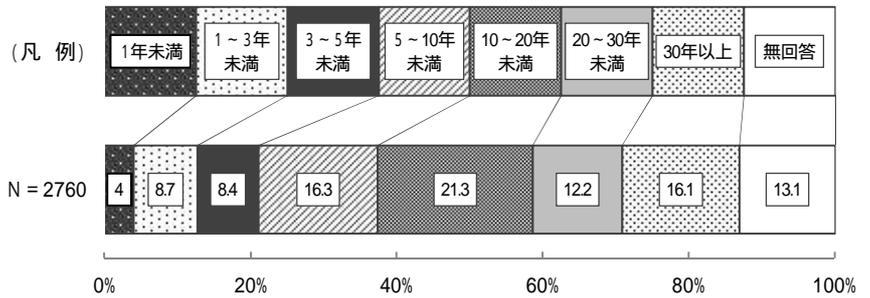


前回の認知症に関する選択肢は、「相談窓口の充実」、「本人や家族を支援するサービスの充実」、「医療サービスの充実」、「理解が深まること」の4つであり、最も割合の高い「認知症の人や家族を支援する介護保険サービスや福祉サービスの充実」の14.7%を前回の割合としている。

3 ひとり暮らし調査

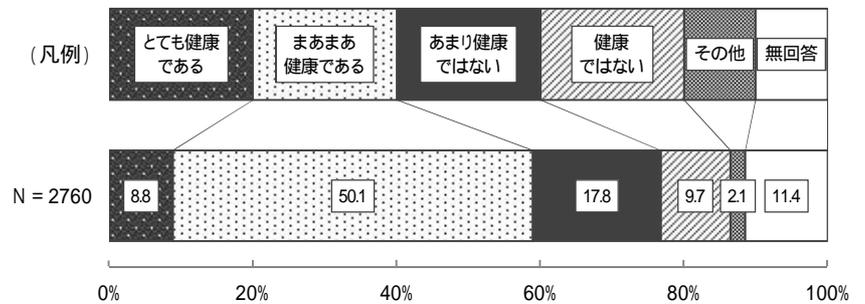
問1 ひとり暮らしの期間

・ひとり暮らし世帯の回答者の「ひとり暮らしの期間」については、「10～20年未満」が21.3%と最も多く、次いで「5～10年未満」、「30年以上」となっている。



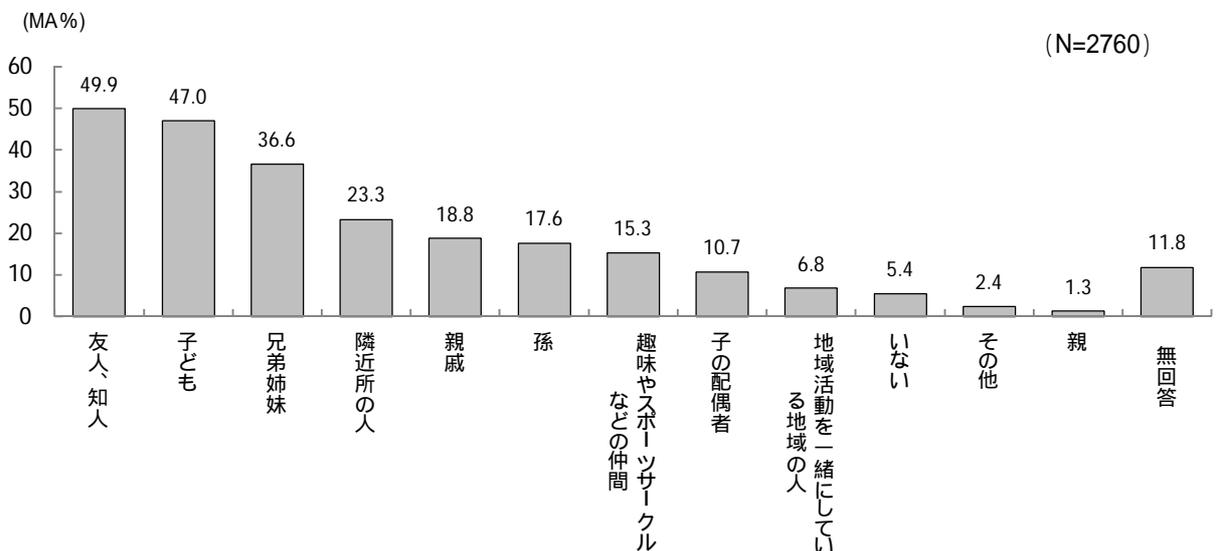
問2 健康状態

・ひとり暮らし世帯の回答者の「健康状態」については、「まあまあ健康である」が50.1%と最も多く、次いで「あまり健康ではない」が17.8%となっている。
 ・「とても健康である」「まあまあ健康である」をあわせた『健康な状態』のひとり暮らし世帯の方は、58.9%となっている。



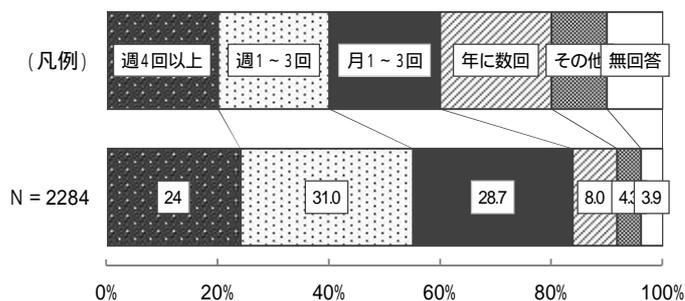
問3 日頃行き来したりする方 (複数回答)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「電話などを含め連絡や行き来する方」については、「友人、知人」が49.9%と最も多く、次いで「子ども」が47.0%となっている。
 ・一方、日頃誰とも行き来のない「いない」と回答された方は、5.4%となっている。



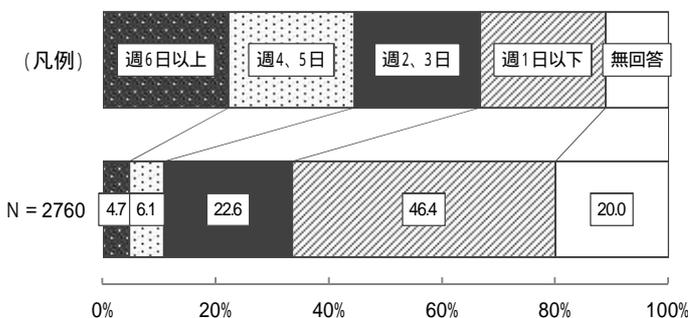
問6 もっとも親しくしている方との行き来の頻度

・ひとり暮らし世帯の回答者の「最も親しくしている方との行き来の頻度」については、「週1～3回」が31.0%で最も多く、次いで「月1～3回」、「週4回以上」の順となっている。
 ・また、「年に数回」といった、行き来の頻度がかなり少ない方は、8.0%となっている。



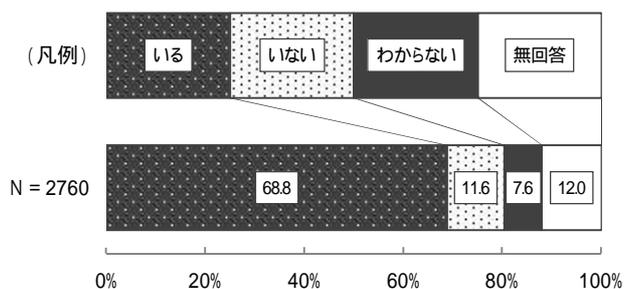
問7 誰とも話をしない日は週に何日か

・ひとり暮らし世帯の回答者の「誰とも話をしない日は週に何日か」については「週1日以下」が46.4%で最も多く、次いで「週2、3日」となっている。
 ・また、誰とも話をしない日が週のほとんどである「週6日以上」の方は、4.7%となっている。



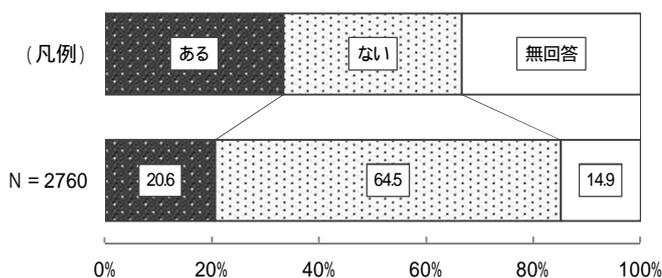
問8 病気等の緊急時にすぐに来てくれる人の有無

・ひとり暮らし世帯の回答者の「病気等の緊急時にすぐ来てくれる人の有無」では、「いる」が68.8%で、「いない」は11.6%となっている。



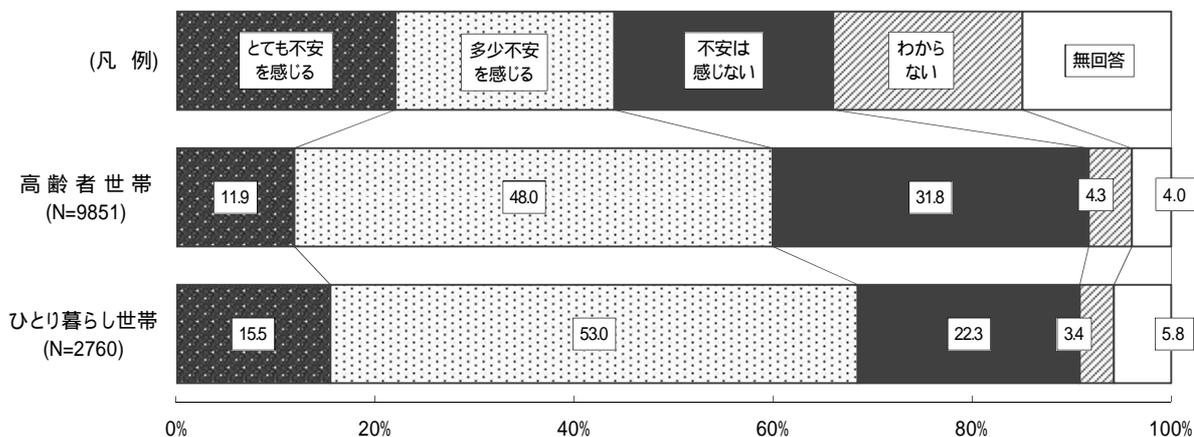
問9 直近1年間で、3日以上介護が必要になったことがあるか

・ひとり暮らし世帯の回答者の「直近1年間で、3日以上介護が必要になったことがあるか」については、「ある」が20.6%で、「ない」は64.5%となっている。



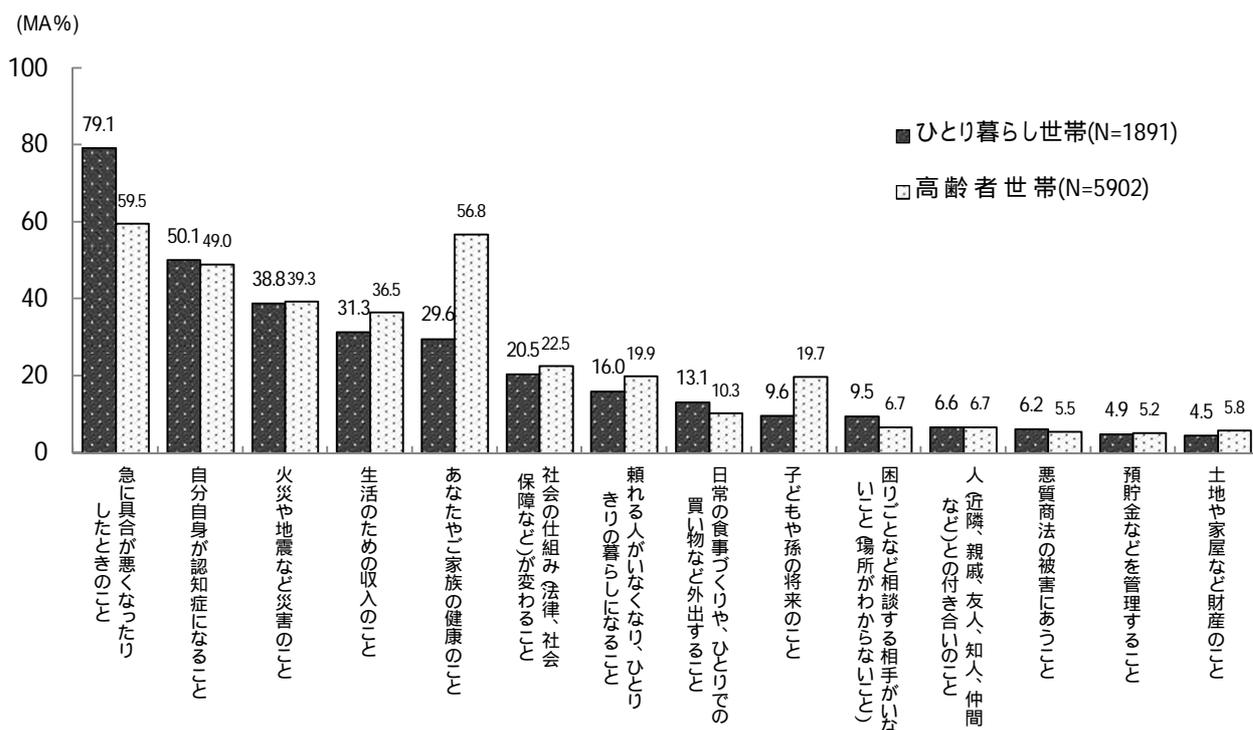
本人調査 問16 日常生活全般に対する不安

・ひとり暮らし世帯の回答者の「日常生活上不安を感じるか」については、高齢者世帯全体と比べると「とても不安を感じる」「多少不安を感じる」の割合が多く、「不安は感じない」の割合が少なくなっており、全体的に、ひとり暮らし世帯の方が、不安に感じるとの回答割合が高くなっている。



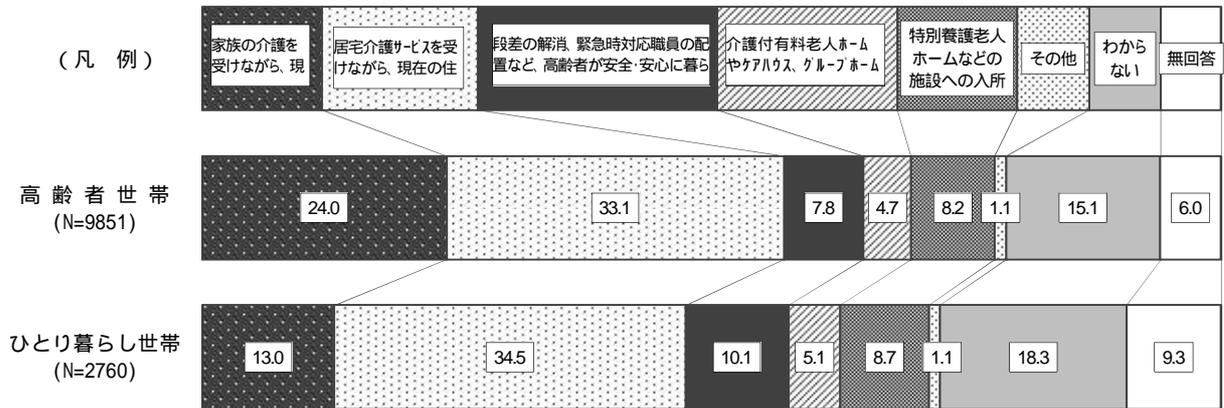
本人調査 問16-1 不安に感じることの内容（複数回答）

・ひとり暮らし世帯の回答者の「日常生活上不安に感じることの内容」については、「急に具合が悪くなったりしたときのこと」が最も多い回答であり、約8割の方が選択している。



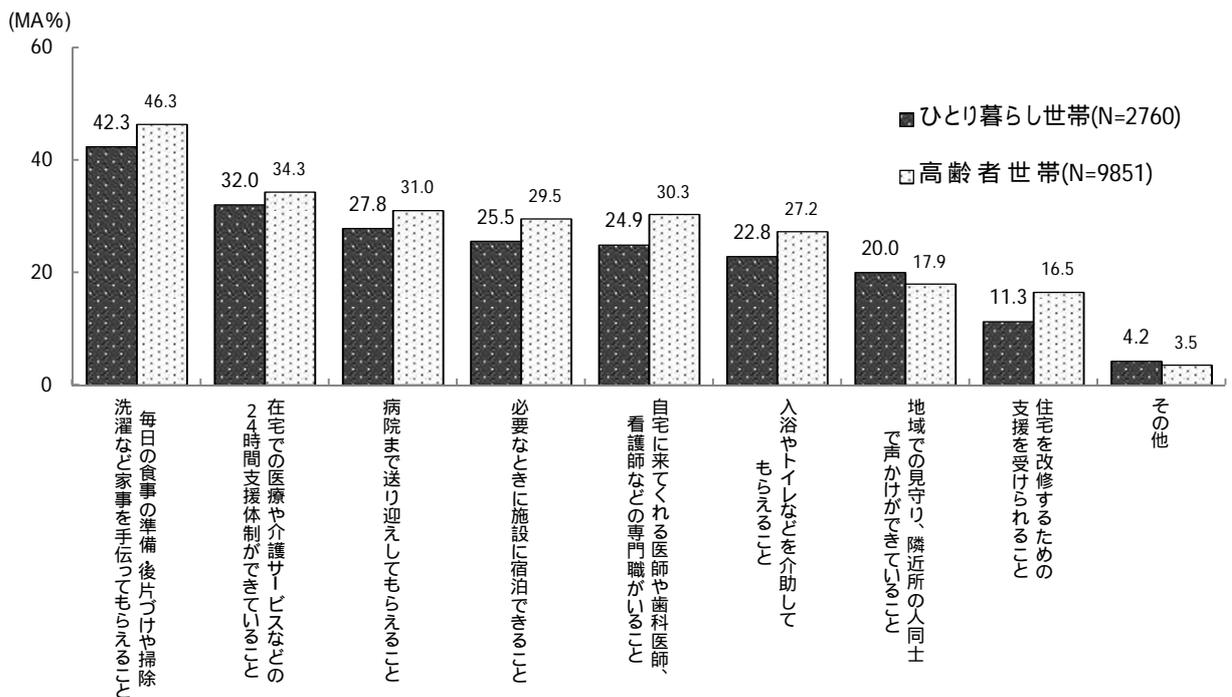
本人調査 問28 介護や援護が必要になった場合に希望する暮らし方

・ひとり暮らし世帯の回答者の「介護や援護が必要になった場合の暮らし方の希望」については、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」は、高齢者世帯全体と比べて回答割合に差があるが、「居宅介護サービスを受けながら現在の住宅に住み続けたい」は、ひとり暮らし世帯の方が回答割合が高くなっている。
 ・全体的には、高齢者世帯全体、ひとり暮らし世帯とも、在宅希望の回答割合が最も多い。



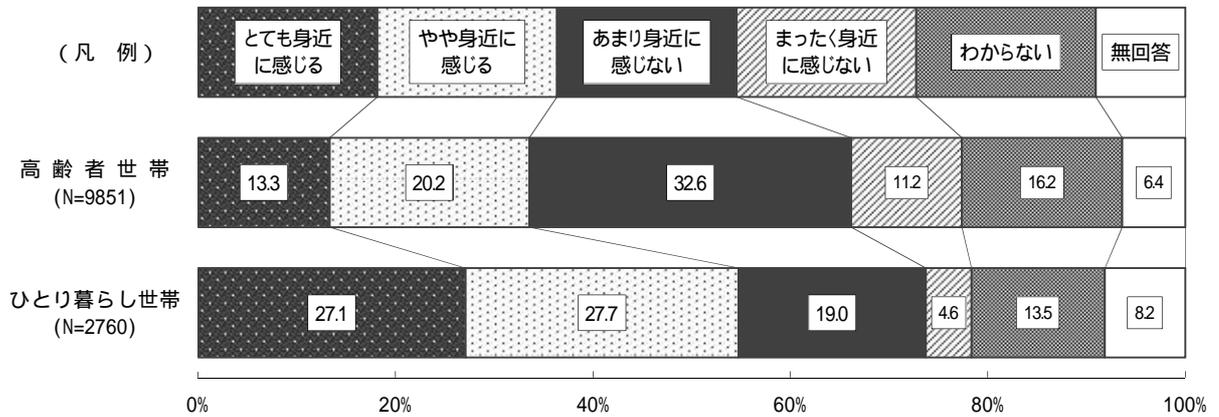
本人調査 問29 在宅生活継続のために必要な支援（複数回答）

・ひとり暮らし世帯の回答者の「在宅生活を継続するために必要な支援」については、概ね高齢者世帯全体と同様の傾向となっているが、「地域での見守り、隣近所の人同士で声かけができていないこと」については、ひとり暮らし世帯の回答割合がやや高くなっている。



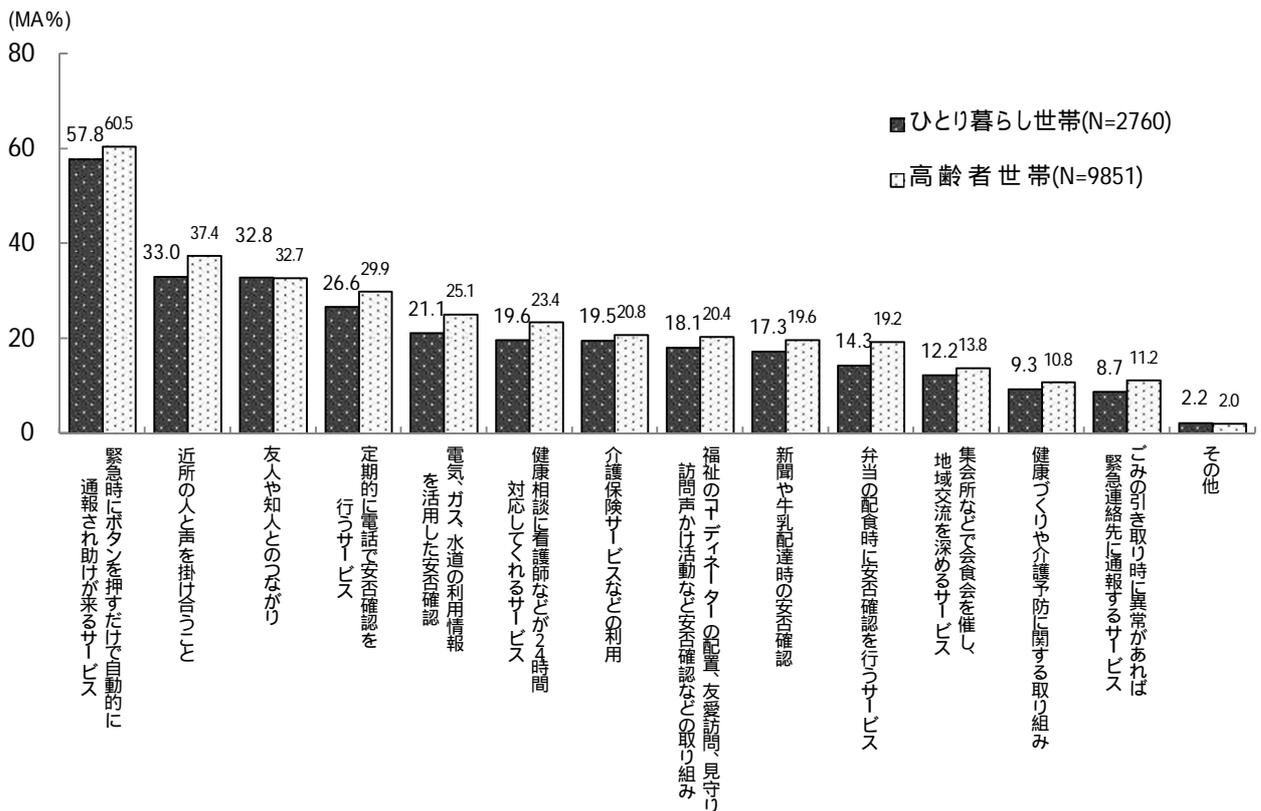
本人調査 問36 孤立死について考えること

・ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死について考えること」は、「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」をあわせた割合は、高齢者世帯全体が33.5%であるのに対して、ひとり暮らし世帯は54.8%と大きな差がみられる。



本人調査 問37 孤立死を防ぐために必要な支援（複数回答）

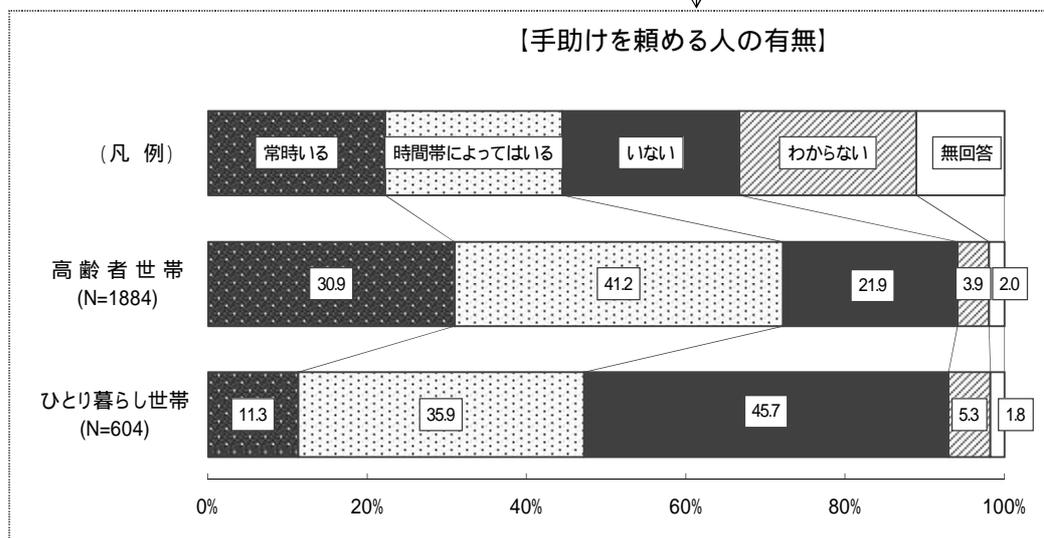
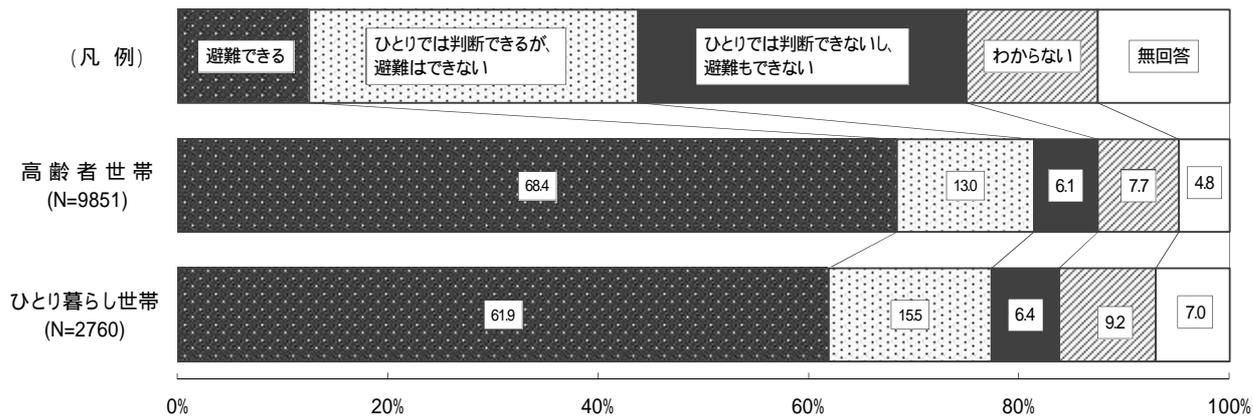
・ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死を防ぐために必要な支援」については、高齢者世帯全体と概ね同様の傾向となっている。



本人調査 問38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か
本人調査 問38-1 （ひとりで避難できない方）手助けを頼める人の有無

・ひとり暮らし世帯の回答者の「災害時・緊急時にひとりで避難が可能か」については、「ひとりで判断できる」、「ひとりで判断できない」とをわせた『避難できない』方の割合は、高齢者世帯全体よりも高くなっている。

・また、『避難できない』とお答えの方に、手助けを頼める人の有無を尋ねると、ひとり暮らし世帯では、「いない」との回答が45.7%となっており、これは高齢者世帯全体の倍以上の数値となっている。



本人調査 問45 重点を置くべきと考える高齢者施策（回答3つまで）

ひとり暮らし世帯の回答者の「重点を置くべきと考える高齢者施策」については、高齢者世帯全体と概ね同様の傾向であるが、「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」、「住宅改修の充実」、「情報の提供と相談」、「地域の見守り、相談機能の充実」、「特にない」において、高齢者世帯全体よりも高い回答割合となっている。

